

総合計画審議会委員からの意見整理

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
1	資料6	3目標の全体	別所	総括の記述とKPIとの関係（結びつき）が読み取れません。例えば市民の健康寿命については重点施策1（3）を見ると実績値を出していないため「延伸を図りました」という結論を導く基礎データがありませんし、仮に延伸が図られたとして、それが住み続けたいと思う人の割合を具体的にどの程度増やすことができるかについても検討がされていない状態が続いています。これは一例に過ぎず多くの点でKPIと総括の記述の結びつきが明確でなく、適切な評価を行うことはかなり難しいものとなっていると考えています。皆さんが努力を積み重ねていることは総括文から伺うことができますので、記載の一段の工夫が必要ではないでしょうか。
2	資料6	3目標の全体	奥	総括の記載において、昨年度の総合計画審議会意見を踏まえた改善がなされており、PDCAを意識した今後の方向性に言及するとともに、まちづくりの目標に対応したものとなっている。
3	資料6	3目標の全体	内山	小田原市に住み続けたいという点について、市民の意識調査をみると「道路・公共交通充実」に不満感を抱いていることがわかるため、これに関連する取組の状況をもう少し示してはどうか。例えば「小田原市地域公共交通計画」の内容や実施状況など。その他、防災対策や、高齢者福祉なども重要度が高いが満足度が低いものについて、取り組み状況や成果を示す必要があるのではないか。 脱炭素化については、高い目標が掲げられているが、目標達成に届く見通しが示されることが必要でないか。達成状況が思わしくない場合、軌道修正できる取り組みなどについて示されると良いのではないかと。
4	資料6	生活の質の向上	有賀	小田原に住み続けたいと思う人の理由として、子育て支援の充実が0.5%と最低でここ何年も伸び悩んでいる。総括の3点目、安心して子育てができる環境の実現を目指すためには、このような現状を踏まえたきめ細やかな「ニーズ調査」が求められているのではないかと。
5	資料6	生活の質の向上	平井	小田原に住み続けたいと思う人の割合は2023年度調査では若年層で特に低くなっており、「総括」においても学生や子育て層、働き世代の関心の高い項目を優先的にとりあげた方がよいのではないかと。
6	資料6	地域経済の好循環	柳瀬	観光消費額が目標値を上回っていることに対する「総括」の記載について、例えばイベント開催、TOTOC0やガンダム・MFゴーストなどのアニメを活用した地域独自の特色ある取組みが多くある中で、今後の実績の上積みのためにも、もう少し分析が必要だと思います。
7	資料6	豊かな環境の継承	柳瀬	（次期計画策定の参考です） 着実に数値は向上しているが、極めて高い目標値を達成するためには、小田原市単独で目標を設定するのではなく、近隣市町や県などと連携して広域的、戦略的に取り組む課題と考えます。
8	資料7	重点1	有賀	医療・福祉（3）健康寿命の延伸 具体のアクション③地区活動の充実 取組内容について、城下町おだわらツーデーマーチにおける市内外の参加者は、延べ4,061人とある。観光イベントとして定着しつつある中、市内の参加者はどの程度か？市民のための健康づくりの場となっているか。
9	資料7	重点1	柳瀬	(1)について（参考） 数値を公表しない県の立場で恐縮ですが、目標数値は客観的で分かりやすく、確実に把握できるものとすべきなので、資料記載のとおり、目標数値の再考が必要ではないでしょうか。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
10	資料7	重点1	別所	(1)安心の地域医療体制について②市立病院経営改革プランの促進に関する取り組みは経営強化プランの策定をしたという記述にとどまっており、プランが実施された場合にどのような効果が期待できるのかという定量的、定性的な数値と「二次救急医療の圏域内自己完結率」の向上にどの程度貢献できるものなのかを記載頂くことが望ましいのではないかと考えます。
11	資料7	重点1	益田	二次救急医療の圏域内自己完結率の実績値がいまだに出ていないことから、KPIを変更するべきではないか。
12	資料7	重点1	益田	地域福祉相談支援員について、引き続き、さらなる周知、増員を図ってほしい。
13	資料7	重点1	益田	民生委員への市からの依頼事業について、負担軽減のために見直しを進めるべきと考える。
14	資料7	重点1	奥	3つのKPIのうち「二次救急医療の圏域内自己完結率」と「健康寿命」については実績値が入っておらず、KPIに照らした進捗状況を確認できない。
15	資料7	重点1	奥	(2)地域共生社会の実現の具体のアクション③地域のケア力の醸成では、民生委員の活動支援や欠員補充に取り組んでいる旨が記載されているが、民生委員というボランティアに「地域のケア力」を大きく依存していること自体に限界があるのではないかと。国においても民生委員・児童委員の認定要件の検討が開始されたところであるが、こうした動向もにらみつつ、国の統一的制度のみに頼るのではなく、小田原市の「地域のケア力」とはいかなるものかを改めて検討する必要があるのではないかと。
16	資料7	重点2	有賀	防災・減災(1)地域における国土強靱化の推進 具体のアクション③情報伝達手段の高度化 取組内容について、「おだわら防災ナビ」において、最近の異常な暑さ対策として、熱中症防災サイトの活用を周知したい。ただ、緊急時の情報を防災無線に頼る年齢層も多く、熱中症警戒アラートが発令された場合は無線放送をお願いしたい。
17	資料7	重点2	曾我	資料から各課、団体等の取り組みがよくわかります。特に小田原市ハザードマップは、各家庭に配付され、玄関や台所に常置している家庭も多いです。しかし、アプリの活用は自分でダウンロードが必要なため、高齢者には難しいです。やはり自分の身は自分で守るために必要最低限の避難経路や留意事項を視覚的にわかるように、難しい言葉や専門用語を使わない簡潔に記した紙媒体のマニュアルがあるとよいです。
18	資料7	重点2	柳瀬	(2)について 「防災意識の向上」については、防災意識のレベルに個人差があるため、目標数値達成のためには、それぞれのレベルに合わせてターゲットを絞った、メリハリのある取組が必要だと思います。
19	資料7	重点2	別所	(1)③について、昨年と同様の指摘になりますが、防災アプリについてはダウンロード数やMUBの数値を記載頂きたいと考えます。
20	資料7	重点2	益田	災害時に適切な情報が多様な手段により届いていると回答した割合が減少していることは、地震、水害等の災害が増えている中、あってはならないことと感じる。「おだわら防災ナビ」の周知が図られていないこと、活用方法をアピールしていないことに原因があるのではないかと感じる。
21	資料7	重点2	奥	二つのKPIともにR4年度の数値からいずれも2.4ポイントずつ悪化してしまっている要因をどのように分析するのか、記述が欲しい。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
22	資料7	重点2	奥	「災害時に適切な情報が多様な手段によりすべての人の届いている」という2030年の目標を掲げるなか、具体のアクション③情報伝達手段の高度化では、ナビ、サイネージ、スマートポールといった新たな情報伝達手段を導入したとのことであるが、こうした手段の活用機会がないか、それが乏しい人々に対する情報伝達をどのように行っているのか、そこに漏れがないのかの検証が必要ではないか。
23	資料7	重点2	奥	昨年度の総合計画審議会意見にもあったが、防災ナビについては普及啓発したというだけでなく、ダウンロード数などの具体的な活用状況に関する記載が欲しい。
24	資料7	重点2	平井	災害時に適切な情報が多様な手段により届いていないのは2023年度調査では80歳代以上や学生などに多く、防災アプリにこだわらず、80歳代以上が情報手段として頼っている防災無線やテレビ放送、学生が頼っているメールなど、それぞれのターゲットに沿った情報発信を強化する姿勢を示した方がよいのではないか。
25	資料7	重点3	有賀	教育・子育て（1）質の高い学校教育 具体のアクション③新しい学校づくりの推進 取組内容について、「新しい学校づくり推進基本方針」を策定しとあるが、その中の支援を要する児童生徒数・学級数は、全体数が減少しているにもかかわらず、増加の一途をたどっている。子どもたちが夢をもって通える学校づくりを進めるためには、プールのあり方や施設整備より、支援教育の充実を図っていくべきではないか。
26	資料7	重点3	益田	夢を持つことが最終目標でよいのか疑問を感じる。
27	資料7	重点3	益田	「小田原版STEAM教育」について、有意義な取組みだが、実際に行う場合、地域との連携をどのように、誰が行っていくのか、教職員の働き方改革との兼ね合いのなか、教員に負担が行くことがないように人員配置などについて、配慮してほしい。
28	資料7	重点3	益田	水泳授業の民間スクール活用については、保護者も教員も満足度が高いことから、夏だけではなく、年間を通してでも、全校が行えるように計画を立ててほしい。
29	資料7	重点3	益田	「はーもにい」は、妊娠時から青年期という長期の相談に対応するため、今すぐに成果が現れるという性質の施設ではないが、経年での相談体制の成果、特に相談者側からの充足度について調査してほしい。
30	資料7	重点3	益田	「おだわらっ子見守りサービス」について、なかなか拡充が進まないが、全学区に対し、迅速な拡充を望む。
31	資料7	重点3	益田	多様で特色のある質の高い幼児教育・保育の実践とは、どの指標を用いて質の高いと評価するのか。
32	資料7	重点3	益田	公立幼稚園では、発達障害のある子どもの入園率が高くなっている傾向がある。公立幼稚園の今後のあり方を考えるときに、療育に特化していく園を創設することなども視野に入れていく必要があるのではないか。
33	資料7	重点3	益田	公立保育所の紙おむつ回収の業務委託化など、保護者、保育者の負担軽減になる施策は、より一層進めてほしい。
34	資料7	重点3	奥	（2）子ども・子育て支援のKPIのひとつである「子育て環境や支援に満足している保護者の割合（未就学児）」の実績値が、基準値から約6ポイントも下がってしまっている要因をどのように分析するのか、記述が欲しい。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
35	資料7	重点3	平井	まちづくりの目標とも関わる子育て層へのアプローチについてニーズ調査を実施したとあり、その結果として政策の優先順位づけや新たな政策形成につながっているのか、構想しているのか記載した方がよいのではないか。
36	資料7	重点3	内山	(1)「エビデンスに基づく授業改善」について実施した取り組みがあれば明記していただきたい。また、小田原市の目指す質の高い学校教育のためには、ステップアップ調査の活用や、子ども主体の学習を進めるための研修など教師の支援も重要であると考え。教員の働き方改革も一層推進していただきたい。また、KPIを見直すタイミングがあれば、見直す必要があると考える。
37	資料7	重点3	内山	(3) 幼児教育・保育職の働き方改革を一層推進していただきたい。成り手不足が喫緊の課題と考える。
38	資料7	重点4	有賀	地域経済(3) 地域資源を生かしたビジネス展開 具体のアクション①美食のまち 取組内容について、「美食のまち小田原推進委員会」では、子どもたちに小田原の食の豊かさや食材・食文化に興味をもってもらうため、市内の子ども食堂へ小田原産の農水産物の提供を行っている。今まで下中たまねぎ・イシダイ・新品種のいちご「かなこまち」をいただいた。地場産物を知るきっかけになり、食育にもつながっているありがたい取組である。
39	資料7	重点4	柳瀬	経済政策で成果を上げていくには、一定の経済的インセンティブにより民間企業の背中を押すきっかけ作りも重要です。費用対効果や将来的財政負担を十分勘案した上で、国補助金の活用や県の取組みとの相乗効果により、小田原市の持つポテンシャルを最大限活用した施策展開による経済の活性化を期待します。
40	資料7	重点4	別所	(1)(2)(3)ともに、KPI達成のために何件の働きかけに対して、何%のレスポンスがあるのかという分析を各プロセス毎に実施した上で、最初の働きかけをする対象件数を設定するなどの取組を進めて行かないと目標の達成は難しいのではないのでしょうか。
41	資料7	重点4	益田	小田原でワーケーションを行う方々が、小田原自体に興味を持ってもらえるよう、地域住民が交流できるような場やイベントが増えることを望む。
42	資料7	重点4	奥	いずれのKPIに係る実績値も伸びており、着実な進展がみられる。
43	資料7	重点4	奥	(1) 企業誘致の推進の具体のアクション②工業団地の整備推進・産業用地等の創出では、工業団地の整備に向けて、土地利用規制の緩和について検討しているとの記載があるが、省エネ・再エネ導入といった温暖化対策や緑地創出といったグリーンインフラ整備においてもモデルとなるような検討をお願いしたい。
44	資料7	重点4	平井	まちづくりの目標に観光客消費額があり、重点施策5 天守閣等の来場者数とひもづけられていると考えられるが、観光客消費額は大きく伸びているものの来場者数自体は伸び悩んでいる。まちづくりの目標をより把握できる目標に変えることも考えてもよいのではないか。あるいは、1人あたりの観光客消費額が伸びている(伸ばしていくべきと考えている)のであれば、重点施策4 地域経済にそのことと関連づけた重点施策・目標を掲げてよいのではないか。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
45	資料7	重点4	内山	企業誘致、新しい働き方については、意識調査においても「不満」の割合が高く、取り組みの継続と周知やPRが重要であると考えている。女性活躍や若者の活躍も関連する取り組みとして一層の推進が必要ではないか。
46	資料7	重点5	曾我	アウトリーチや関係団体による鑑賞・参観型や参加・体験型など、子どもたちの感性や想像力の伸長に役立つ取り組みが年々選択肢や専門性も充実してきています。まだまだ発掘されていない分野もあると思うので、さらなる開発をしていくとよいです。
47	資料7	重点5	柳瀬	(2)について 三の丸ホールの管理運営の見直しに当たっては、来場者目線での検討は勿論ですが、より質の高い企画を将来に渡って展開していくため、例えば利用頻度の高い団体やイベント企画事業者に最新のニーズをヒアリングし施設改善の参考にするなど、主催、企画する側にも配慮した検討をお願いしたい。
48	資料7	重点5	益田	観光交流センターのイベントを多数開催したにも関わらず、利用者が減少しているのはなぜなのか。原因を考え、改善してほしい。
49	資料7	重点5	益田	城山陸上競技場でのスポーツイベントが増えている。市内外へのアピールのためにも、観客席の改修や電光掲示板の設置などの計画を進めてほしい。
50	資料7	重点5	益田	外国につながるの児童生徒についての支援はもちろん必要であるが、子どもは学校で学べる面がある。ただ、その保護者や家族について、言葉や生活面での支援が届かないという面もあるのではないかと感じる。そこに対する理解も深まるとよい。
51	資料7	重点5	奥	(2)文化・スポーツを通じた地域活性化の具体のアクション③スポーツ環境の整備に関する取組内容として、スポーツコミッションについて関係団体間で随時情報共有を行ったことや多くの集客が見込まれる大会主催者と連携して歓迎ムードの盛り上げや地域活性化につながる取組を実施したとあるが、総合計画が掲げる「民間主体のスポーツコミッションの取組支援」とその先の「スポーツコミッションによる事業推進」に向けて具体的に何を行ったのかの詳細を記載していただきたい。
52	資料7	重点5	内山	(3)国際学校や交流事業の再開の状況や見通しについて記載できるとよいのではないか。
53	資料7	重点6	奥	(1)再生可能エネルギーの導入促進の具体のアクション③ゼロカーボン・デジタルタウンの創造については、実施しないこととした旨が市のホームページに記載されている。同事業を実施しないにしても、市内のポテンシャルを最大限に活かした再エネ導入は脱炭素社会の実現に向けて不可欠であることから、地球温暖化対策推進法に基づく地域脱炭素事業の促進区域の指定や建築物省エネ法に基づく促進区域を定める計画策定といった、土地利用や面的な開発において脱炭素に資する取組を明確に位置付けていくための取組は着実に進めていっていただきたい。
54	資料7	重点6	奥	(2)地域循環共生圏の構築と森づくりのKPIである「小田原の森里川海に触れる体験をした都市住民の割合」は、実績値が把握されておらず、そもそも範囲の確定や把握が難しく、備考欄にもあるように再考が必要であると思われる。
55	資料7	重点6	内山	(1)公共施設、公共事業における再生エネルギーの導入や活用の状況についても示していただけたいと思います。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
56	資料7	重点7	柳瀬	小田原駅西口の開発については、すべての住民が納得することは現実的ではなく、最後は市長判断になりますが、将来に渡り持続可能なまちづくりを適時・着実に推進するには、住民対応などプロセスのあり方が大変重要となるため、丁寧な対応をお願いしたい。
57	資料7	重点7	別所	意識調査において小田原が住みやすいと思う人の割合が既に95%を超えているということは、残り5%弱の人々が具体的に何が満たされれば住みやすいと思うのかという点を分析して集中的に対策を進めていかなければ割合を上げることが難しいととても難易度の高い挑戦をされているため、今後は何を深掘りして対策を進めるのかを再分析してみてはいかがでしょうか。
58	資料7	重点7	益田	西口地区についての開発によって、インバウンドの効果も上がると感じる。
59	資料7	重点7	奥	KPIと具体のアクションとが必ずしも連動しておらず、（１）小田原駅・小田原城周辺のまちづくりでは、具体のアクションが展開された結果を示す指標として駅乗車人員や地価が適切かどうか、また、（２）地域特性を生かしたまちづくりでは、小田原が住みやすいと思う人の割合という指標がその下にぶら下がっている具体のアクションのみで実現されるものではない。
60	資料7	重点7	奥	（１）小田原駅・小田原城周辺のまちづくりの具体のアクション①都市再生整備計画によるハード・ソフト事業の展開の取組内容の記載に「生活の質の向上や地域経済の活性化、関係人口の増加を図りました」とあるが、その根拠となる具体的な数値やデータを示して欲しい。
61	資料7	重点7	奥	（２）地域特性を生かしたまちづくりの具体のアクション②海を生かしたまちづくりの取組内容をみると、そもそも「海を生かしたまちづくり」とは何を意味するのか、どのような状態をイメージしているのかが問われるものとなっている。
62	資料7	重点7	平井	小田原がすみやすいと思う人の割合は2023年度調査では、若年層や子育て層、橘地区居住者、低所得層で低くなっている。具体的なアクションでもそうした層に届くようにしていることが伝わった方がよいのではないかな。
63	資料7	重点7	内山	（２）③市民の意識調査の結果からも、地域の交通の利便性を高めることは重要である。官民連携をしながら、より小回りのきくコミュニティバスや、ライドシェアなど多様な方法の検討が重要であると考えている。
64	資料8	施策1	有賀	地域福祉・多様性の尊重 詳細施策2 地域福祉活動の支援 コロナ禍が明け、民生委員・主任児童委員の仕事や会議、行事の数も現状に戻りつつある。今後、活動が活発になるにつれ、受け止める相談件数も増え、多忙化が懸念される。後継者育成に向けた行政対応に期待したい。
65	資料8	施策1	曾我	民生委員・児童委員の人員不足は切実です。未就学児童のふれあいなど近隣の地区で協力して開催したり、情報交換を密にしたり、委員相互・地区相互で活動の工夫をしていますが限りがあります。R5にも書かれていましたが、有償での協力をお願いすることも必要になるのでしょうか。
66	資料8	施策1	益田	詳細施策2 民生委員の負担軽減と新たな担い手確保は急務と考える。
67	資料8	施策1	益田	詳細施策4 女性の参画率のみではかるのではなく、性別関係なく、その役に必要な人材を登用することが大切だと思う。そのような社会全体の意識のボトムアップをはかることが結果的に女性の参画率アップにつながるのではないかな。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
68	資料8	施策1	奥	KPIに照らした実績値を見る限りではいずれも改善または目標を達成している状況にある。一方で、詳細施策1の重層的支援体制の構築では組織間の協働・連携体制の構築、詳細施策2では具体的かつ実効性のある新たな担い手の育成確保策の実施、詳細施策3では子どもの学習も含めた生活支援の実施、詳細施策4では多様性や人権に対する理解と認識の醸成が求められているところであり、そのために何をどのように行っていくのかが問われる。
69	資料8	施策2	益田	詳細施策1 アクティブシニア応援ポイント事業について、周知不足の感が否めない。
70	資料8	施策2	益田	詳細施策2 高齢者の課題は今後、益々増加、複雑化していく中で、地域包括支援センターの人員強化は不可欠と考える。
71	資料8	施策2	奥	詳細施策2の高齢者支援・相談体制の充実のKPIは検討会議（地域ケア会議）の取扱件数となっているが、総合評価では「個別・圏域ケア会議の開催件数は依然として目標値に届きませんが、～」とある。KPIは取扱件数なのか、会議の開催件数なのか、どちらなのか。会議開催件数であるとすれば、その先に地域課題がどの程度、どのように解決や改善につながったのかが本来評価されるべきではないか。
72	資料8	施策2	奥	詳細施策3の介護サービスの提供では、専門業者に委託することで効率的・効果的なケアプランの点検が実施できたとあるが、実際のサービス利用者の立場からの評価やサービスの質的向上にどのようにつながっているかといった観点からの評価が必要ではないか。
73	資料8	施策3	奥	詳細施策1の障がい者支援・相談体制の充実のKPIとしては、「基幹相談支援センター延べ相談件数」が位置づけられており、既に目標値は達成していることからA評価となっているものの、本来は件数が増えることのみを目指すのではなく、相談をしっかりと受け止めて、必要かつ適切な支援や解決につなげていくことが重要である。そうした観点からの総合評価が欲しいところである。
74	資料8	施策3	益田	詳細施策4 障がい者手帳を持っていないが生きづらさを感じている若者が増えている。そうした若者に対する支援拡充を進めてほしい。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
75	資料8	施策4	有賀	健康づくり 詳細施策1 保険予防の充実 今後の展開に若い世代が健診（検診）を受診できる体制整備を図りとあるが、受診率向上のために小田原市で開発した健康応援アプリの情報提供を促してはどうか。
76	資料8	施策4	曾我	自然環境と市民が共生できるまちの意識づけになると思うのですが、食育の一環として地産地消を意識した総合的な学習の活動や家庭科の調理実習で推奨してはどうでしょうか。小田原の農業や水産業、企業に協力をお願いして出前授業などすることにより、小田原の食資源のすばらしさを実感し、小田原で暮らしていく糧となるとと思います。
77	資料8	施策4	奥	詳細施策2においては、KPIの実績値が把握できていない理由とともに、評価がCである理由を総合評価において明確にする必要があるのではないかと。
78	資料8	施策5	曾我	肺炎球菌の予防接種カードが送られてくるなど丁寧な対応。市から送られてくる健康診断受診で発見された病気をその場で市立病院に連絡していただき、大事にならずにすみしました。健康診断の啓発と連携はすばらしい。
79	資料8	施策5	益田	詳細施策2 小田原市休日夜間診療所の担当医によって診療に差があるという話を聞く。誰もが、いつでも自ら選んで医療にかかれるよう、民間の往診サービスの誘致はできないものか。
80	資料8	施策5	奥	詳細施策4の新病院の建設については、事業進捗率が7.8%で目標達成率は14%にとどまっているが、何故に概ね計画通り（B）という総合評価になるのか、R6の目標達成の見込みがあると何をもって判断しているのかの説明が欲しい。
81	資料8	施策5	平井	詳細施策1 地域医療連携の推進のKPIが低いのは2023年度調査では40代、60代の方、未就学の子どもや小学生と同居する世帯、会社員などになっている。ここからは病児・病後児保育に対する不満・不安が高いと推察されるが、取組内容や総合評価ではまったくふれられていない。KPIを見直すか取組内容を検討し直すかされた方がよいのではないかと。
82	資料8	施策6	益田	詳細施策4 消防団は、地域の繋がりを作るためにも必要不可欠な団体である。地域住民のニーズに合わせ、性別関係なく入団できるような組織にしていってほしい。
83	資料8	施策7	有賀	防災・減災 詳細施策1 災害被害軽減化の推進 総合評価の記載内容について、取組内容と目標の関係性の視点をもって、もう少し詳細に記述していただきたい。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
84	資料8	施策7	有賀	防災・減災 詳細施策3 地域防災力の強化 市民意識調査によると、防災訓練に参加しない理由として、「知らなかった」が一番多く38.7%となっている。無関心層への呼びかけや周知の仕方を工夫する必要がある。
85	資料8	施策7	曾我	防災訓練の際に避難経路（自分の地区の避難所まで）及び避難の仕方なども取り入れたら（もちろんその旨を広報活動して）参加者が増えるのではないのでしょうか。
86	資料8	施策7	曾我	桜井地区きずなチーム情報交換会で、社協の方が能登町の支援活動に行った報告がありました。住人の方のことばかり行政、民間の支援はもとより、住民相互の助け合いの大切さが心に残りました。日頃のコミュニケーションや自治活動の大切さを実感しました。こういうことは、市民に発信していくべきだと思います。
87	資料8	施策7	益田	詳細施策3 自主防災組織について、自治会の役員が兼任していることが多いと思う。仕方のないことではあるが、住民の疲弊感は否めず、活動も形骸してはいないか。防災訓練についても、より多くの住民が気軽に参加できるような形になるよう、スポーツイベントと一緒にするなど、思い切った改革が必要ではないか。
88	資料8	施策7	奥	詳細施策1のKPIに危険なブロック塀の撤去数があり、既に目標値は達成しているが、撤去を要するブロック塀が他にもあるとの前提で補助を継続することとしていると思われる。そうであれば、危険なブロック塀がどこに、どれだけあるかを把握する必要があるが、全数把握はできているのか。
89	資料8	施策7	奥	詳細施策3の防災力の強化では、新たな防災訓練を取り入れて、より実践的な内容にするとのことであるが、具体的にどのようなものとするのか説明が欲しい。防災訓練に参加しない理由を踏まえたうえでの見直し求められるのではないのか。
90	資料8	施策7	渡辺ちい子	詳細施策3について、施策説明「平時から女性や様々な状況にある～」の文章の趣旨が分かりかねます。多様な属性の市民が参加することで、多様なニーズに対応した避難所運営ができるようになるということであるとすれば、そのような成果につながるような取組みの実施に関する記述がなく、そのような避難所運営に向けた取組みが進んだのかどうか判断できません。 避難所運営の課題は昨今の災害事例でも取り上げられており、重要な点かと思います。 KPIだけを見れば確かに、参加者数が増えればよいのかもしれませんが、施策としては訓練の質や内容も重視されていると思いますので、ぜひその検証もしていただけたらと思います。
91	資料8	施策8	別所	詳細施策1のKPIである刑法犯認知件数ですが、政府の「国民を詐欺から守るための総合対策」が対象としている犯罪（SNS型投資・ロマンス詐欺）については国レベルでの対応が必要なものであるため認知件数の対象から除外してはどうでしょうか。
92	資料8	施策8	奥	詳細施策1の地域の安全確保では、今後の展開の記述に「振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺が増加傾向にある」とあるが、その防止対策として位置づけられる迷惑電話防止機能を有する電話機等購入費の補助がどの程度活用されているのか、それ以外に対策が考えられないかを検討する必要がある。詳細施策3についても同様で、従来の取組だけでは限界があるのではないのか。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
93	資料8	施策9	有賀	地域活動・市民活動 詳細施策3 まちづくりの担い手育成 目標値を「90人」から「251人」と大幅に変更されたが、実績値は上昇の傾向がみられ今後に期待できる。若い世代の担い手を求めている活動の場も多い。学んだことを生かしやりがい・生きがいを感じることがができる実践の場の提供をお願いしたい。
94	資料8	施策9	益田	詳細施策1 地域コミュニティ組織について、防災組織と同様、自治会の役員が兼任していることが多く、疲弊していると感じる。そのことが担い手不足にもつながっている。
95	資料8	施策9	益田	詳細施策3 担い手育成につながるためのカリキュラム編成に期待する。
96	資料8	施策9	奥	詳細施策1の地域における課題解決の支援について、総合評価にあるように分科会の数が増えずとも、既存分科会の活動範囲の拡大によって課題解決に取り組む地域があるのであれば、そもそも分科会数に拘る必要はないのではないのか。
97	資料8	施策9	奥	詳細施策2の市民活動の支援について、R5年度実績がR4年度から減少した要因はどこにあるのか、総合評価がBとなった理由を記載すべきではないか。
98	資料8	施策9	渡辺ちい子	詳細施策1について、R5はKPIの目標達成には貢献したとしても、既存分科会の活動範囲を広げて柔軟に課題に取り組んでいること自体は評価されてよいのではないのでしょうか。 活動に進捗が見られない地域において、必要な活動なのであればその進捗を図るためにどのような取り組みを行う必要があるのかについても、検証いただければと思います。
99	資料8	施策10	有賀	子ども・子育て支援 詳細施策1 子育て支援の充実 ファミリーサポートセンターの支援会員数はここ1～2年基準値に満たず、実績値もほぼ横ばいの結果である。利用補助の開始について周知を図り、認知度を上げる必要があるのではないのか。また、地域子育て広場において、参加する親子の減少傾向がみられ、役員の後継者を探すことが難しくなっている。
100	資料8	施策10	益田	詳細施策1 ファミサポの支援会員数も大切だが、登録者数、利用者数も知りたい。
101	資料8	施策10	益田	詳細施策2 少子化が進む一方、保育所入園を望む声は増える。ニーズに合わせた施策を行ってほしい。
102	資料8	施策10	益田	詳細施策4 単発的な活動だけでなく、継続的な活動に参加する青少年の育成を考えてほしい。また、生きづらさを感じている青少年のための居場所があってもよいと思う。
103	資料8	施策10	益田	詳細施策5 各学校のPTA事情から、家庭教育学級の開催について、コロナ前の水準に戻ることはないと感じる。新しい形を模索したい。
104	資料8	施策10	奥	詳細施策1の子育て支援の充実について、KPIのファミリー・サポート・センターの支援会員数がR4年度から減少している要因をどのように分析するのか、総合評価において記述すべきではないか。
105	資料8	施策10	渡辺ちい子	詳細施策1について、KPIは「支援会員増」ですが、取組内容は「利用会員増」につながるものが多いように感じます。新たに始まったファミサポ大学についても、学びの場としては興味深い取組みだと感じる一方、その取組みの目的が会員満足度アップなのか、新規支援会員獲得なのかが、ウェブサイトで見るとは分かりにくいように感じました。これに参加できることを会員特典として新規支援会員獲得につなげたいのであれば、明確にそのように打ち出す必要があるかと思っています。2年連続で総合評価Cですので、KPIが改善しない原因分析をもう少し丁寧にされてみてはどうかと思います。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
106	資料8	施策10	渡辺ちい子	詳細施策4について、周知方法を改善されたのは有効と思います。総合評価は依然Cですが、更なる改善を期待します。
107	資料8	施策10	内山	【詳細施策1】ファミリーサポートの稼働状況や、利用者アンケートの結果などのデータがあるでしょうか？
108	資料8	施策10	内山	【詳細施策2】保留児童が増えている背景・要因についての認識を伺いたい。
109	資料8	施策11	有賀	教育 詳細施策2 地域とともにある学校づくり 学校運営協議会制度については、今年度市内全小中学校に導入されることとなり、学校と地域とが連携し学校運営を進めていく協議が今後ますます充実・発展したものとなるよう期待する。また、コロナが落ち着き、放課後子ども教室の参加者も増え、子どもたちの楽しい場所となっているが、人数に見合った部屋数・スタッフの不足を感じる。安心・安全に過ごせる環境づくりに配慮していただけるとありがたい。
110	資料8	施策11	曾我	詳細施策2 地域コミュニティの分科会で作成した地域の歴史や土地利用の冊子を昨年度社会科の授業で活用しました。地域の方が編纂したからこそ、子どもたちは分かり易くより自分のまちに関心が持てました。まさに、子どもが夢や希望を持って住み続けたいと思う一躍を担えたかと思います。
111	資料8	施策11	曾我	ICTの活用はハード面でもソフト面でも推進されています。1年生でも端末を巧みに操作し、色々な学習で活用しています。反面、図書室や教材室の文献や資料の活用が減っているのも否めません。何でも端末を起動するのではなく、自分で読み取ることで国語力もつくと思います。
112	資料8	施策11	曾我	「わたしたちの小田原」小学校用・中学校用は全児童・生徒に配付されていますが（内容は発達段階にあっており分かり易いです）すぐに端末を開くようなケースが多いです。素晴らしい資料です。一人に一冊あるのですから使用してほしいです。
113	資料8	施策11	曾我	熱中症アラートが出るとプールは使用できません。民間のスイミングスクールをさらに多くの学校が使用できるとよいです。安全面でも専門指導が安心です。冬季の利用もあれば多くの学校が使えるのですが、水泳の学習は夏ならではの学習とも言えますね。
114	資料8	施策11	益田	詳細施策3 相談を受けてから、どのように関係機関と連携していくかに注目したい。
115	資料8	施策11	益田	詳細施策4 「新しい学校づくり」の計画を立てると同時に、施設の改修、特に特別室や給食調理室の空調設備の設置については計画的に迅速に行ってほしい。
116	資料8	施策11	奥	詳細施策2の地域とともにある学校づくりのKPIである放課後児童クラブを楽しんでいる児童の割合は75%となっており、1/4の児童は楽しいとは回答していないことになるが、それはいかなる理由によるのかを把握したうえで、改善につなげていく必要があるのではないかと。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
117	資料8	施策11	渡辺ちい子	詳細施策1について、KPIの改善については、現在行われている取組みと合わせ、教員の指導力の向上のための取組みが必要だと思います。 個人的な感覚で恐縮ですが、自分の子どもの学校や周囲の話を聞いても、クラスとして成り立たない崩壊状態のような学級も少なくないようです。どんなによい仕組みが導入されても、クラスが乱れることで子どもの学習意欲が疎外されたり登校できなくなったりするのでは、効果につながらないと思います。教員の負担を減らすとともに、指導力を高めるための教員への教育や研修等についても同時に取り組んでいただきたいと思います。
118	資料8	施策11	渡辺ちい子	詳細施策4について、小田原市の学校給食は他自治体に比べても量も内容もさびしいものであると、私の周囲の移住経験者などの間では以前からよく話題になっていました。 昨年意見にもあるように、小田原は、身近に海も山もあり、地元の新鮮な食材の恩恵を豊かに受けることができる場所です。食材費や燃料費の高騰など難しい問題もあるかと思いますが、地元生産者の協力なども得ながら、単なる栄養素の足し算による献立ではなく、本当に豊かさを味わえる、子どものその後の豊かな人生につながる食育になるような給食を提供していただきたいと思います。
119	資料8	施策11	内山	【詳細施策1】学校運営協議会の実施状況と課題を調査するなど、より効果的な運営に向けた手立てを考えていくことなどが示されていくと良いのではないかと。
120	資料8	施策11	内山	【詳細施策3】相談件数に加えて、相談の満足度等相談後の状況も見ていく必要があるかと思っています。教員の働き方改革に向けた取組が見えないので、詳細施策4などで触れていただけると良いのではないかと。
121	資料8	施策12	奥	詳細施策1については、KPIの立地企業の市民雇用数が当初想定よりも少なかった要因が記載され、今後は増加が見込まれる旨の記載が総合評価にあるものの、実績値を踏まえるとBではなく、C評価とすべきだったのではないかと。
122	資料8	施策13	有賀	商業・地場産業 詳細施策3 中心市街地のにぎわいづくり 総合評価に記載のとおり、たしかに小田原駅周辺は外国人観光客を含め人出にあふれており、コロナ以前のにぎわいを感じる。今後、耐震改修工事後のなりわい交流館を拠点とし、駅周辺以外のエリアについても積極的に小田原の魅力を発信していただきたい。
123	資料8	施策14	有賀	農林業 詳細施策4 林業・木材産業の振興 新生児における森のおくりもの事業、小学校の内装木質化など、木に親しみ、木のぬくもりを感じられる木育事業の一環として今後もぜひ推進していただきたい。
124	資料8	施策14	奥	詳細施策2については、KPIを変更した旨の記載はあるが、どのように変更したのか（耕作放棄地面積→耕作放棄地解消面積）も説明しておくべき。
	資料8	施策15		(意見なし)
125	資料8	施策16	益田	詳細施策3 eスポーツと小田原の間のつながりが見えてこない。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
126	資料8	施策16	平井	詳細施策2「美食のまち」づくりのKPIについて、県調査では観光客消費額を宿泊費、飲食費、その他と区分しているの、「美食のまち」づくりの趣旨に沿って飲食費だけを延観光客数で除した方がよいのではないだろうか。県調査が2023年度分がまだオンラインで公開されていないので、2022年度でみると小田原市の飲食費消費額は1人1181円となる。観光(客)消費額には宿泊費等を含んでおりこちらの数字の方が適切ではないか。また、この1181円という金額は同年の鎌倉市の数字3271円、厚木市の数字3121円と比べて大きく見劣りするものであり「美食のまち」づくりは道半ばと評価した方がよいのではないか。なお、2021年度の同じ数字は小田原市977円、鎌倉市3112円、厚木市1721円で、鎌倉市に比べれば前年比で伸びているものの厚木市には及んでいない。
127	資料8	施策16	平井	詳細施策3のKPIも県調査が公開されていないので詳細はわからないが、小田原市の2024年6月14日付記者発表資料(https://www.city.odawara.kanagawa.jp/press/detail.php?prs_id=12854)でも「・コロナ禍により規模を縮小し開催していたイベント(祭・催事)が、コロナ禍前の規模で開催された。特に、北條五代祭りと酒匂川花火大会は、過去最多の観光客数となった。・開催中止となっていたイベントが再開された。(かまぼこ桜まつり、おでんサミット、満福寺火伏まつり、菓子祭り、みなとまつり)・「小田原ちょうちん光アートフェア」は、令和5年の観光客数が約16万人となり、天候不順だった令和4年と比べ約281%と増加した。」と記されており、こちらの方が実態に即しているのではないか。つまり、「e-スポーツ」についてそこまで評価すべきではないのではないか。実際、e-スポーツ大会に相当するであろう「小田原eスポーツ2023～春の陣～ 小田原城決戦」 https://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/topics/harunojin.html を見ても、直接の参加者が100人単位、観客ほか含めても1000人規模のイベントとは思われない。広告効果を挙げるのであれば、他のコンテンツがテレビ番組にとりあげられた実績とも比較すべきであり、冷静な評価が望まれる。
128	資料8	施策16	平井	詳細施策4回遊の促進のKPIは二次交通利用者で徒歩交通者は計上されないの、取組内容であるまちあるきとは相性があまりよくないのではないか。取組内容をいかすならKPIを見直された方がよいのではないか。
129	資料8	施策17	益田	詳細施策4 郷土について学べる施設である小田原市郷土文化館をもっと広報し、また施設改修もしてほしい。
130	資料8	施策18	益田	詳細施策3 若者世代も利用しやすい図書館になってほしい。
131	資料8	施策18	渡辺ちい子	生涯学習と青少年教育は、重なる面も多くあるかと思います。青少年教育で社会参画を促していくことで、多様な年代と関わり多様な学びを継続していく生涯教育につながっていくようにも思います。両者合わせた施策体系の整理などにより、多様な年代が生き生き学び地域を担う人材育成に向けた取組みの全体が見えると、市民としてはわかりやすく、より参加しやすくなるのではないかと思います。詳細施策2について、コロナで休止している交流事業の再開を、ぜひ早めの実現していただきたいです。コロナ前の事業については承知していませんが、ぜひ青少年育成との関連も整理され、未来を担う小学生などの子どもたちを含め、多様で豊かな経験の機会を提供いただきたいと思います。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
132	資料8	施策19	奥	詳細施策1の温暖化対策の推進のKPIである電気自動車普及台数について、R5年度実績値が把握されていない理由を記載すべきではないか。R6年度の目標値に対する進捗率は20%にとどまっているにも関わらず、B評価としていることの妥当性が判断できない。
133	資料8	施策19	奥	詳細施策2のエネルギーの地域自給の推進のKPIについても、目標達成率21%をB評価としていることの妥当性について、目標達成見通しも含めて説明が欲しい。
134	資料8	施策19	渡辺ちい子	詳細施策1について、市が電気自動車の普及を進めようとしているという認識は、一市民としては持っていませんでした。電気自動車は停電時の電源として活用できる上、自宅の太陽光発電と合わせて活用すれば自家電力で走ることができることなど、そのメリットをより多くの市民に伝えていただければ、更なる普及につながるのではないかと思います。 また、省エネ設備導入支援があることについての情報についても、併せてより広めていただければと思います。 これだけ暑い日が続く中で、市民の中での関心も高まっているのではないかと思います。昨年意見にもありますが、具体的に実施すべきこと、できることなど、些細なことも含め、広く広報していただければと思います。
135	資料8	施策20	奥	詳細施策3の森林・里山の再生については、KPIの森林整備面積を達成していることは評価できるが、量のみならず、森林の質的な充実が生物多様性の観点からも重要である。
136	資料8	施策20	渡辺ちい子	詳細施策2について、KPIである河川の環境基準が100%であるのは素晴らしいと思いますが、そのためにどのような取組みをされたのかについては、取組内容の記載からはよくわかりませんでした。基準年以降ずっと達成されている目標値を維持することが大変だということであれば、そのためにされた取組みや努力についても、示していただければと思います。（達成以降特に取組みに変化がないということであれば、今回の評価で申し上げるのではないかもしれませんが、KPIの設定が適切かどうかということにもなるように思いました。） なお、有害鳥獣の中ではニホンジカの捕獲数が増加していることについて、観光部門などと連携することで、ジビエとして提供するなどして観光資源化することもできるかと思います。日本全国の共通課題ではありますが、小田原でも課題になっていることは知らない人も多いと思いますし、資源の有効活用の面でも検討いただけたらと思います。
137	資料8	施策21	奥	詳細施策3の美化の推進と衛生環境の保持のKPIである美化清掃実施回数が目標値に比して6%にとどまっているものの、総合評価はB評価となっている。そもそも目標値が高すぎたのか、実績値から大幅に増加させることができる見通しがあるのか、説明が欲しいところである。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
138	資料8	施策21	渡辺ちい子	詳細施策3について、美化清掃について、自治会等では担い手が不足するとのことですが、地元商店街や商店会、企業、事業所などへのアプローチなども有効ではないでしょうか。 商店街にとっては、地域の美観は商売にもプラスになるはずで、そもそも清掃活動が必要にならない、ごみや汚れのないきれいなまちづくりへの関心を高める啓発活動とともに、多様なアクターを巻き込んだ環境維持活動に努めていただきたいと思います。
	資料8	施策22		(意見なし)
139	資料8	施策23	曾我	高齢者（特に独居の方）がアパートや借家に入居できない実態が増えています。（私の家の借家も独居の方の入居依頼が多いです。空いていれば提供していますが、そういうオーナーは少ないと思います。）市営住宅を独居高齢者向けに整備し、提供することもできるのではないのでしょうか。
	資料8	施策24		(意見なし)
	資料8	施策25		(意見なし)
140	資料8	推進エンジン1	有賀	行政経営 詳細施策1 市民との情報共有 広報紙やホームページ、SNSなどさまざまなメディアを活用し、市の情報発信を試みているが、市民は実際はどのような方法で情報を得ているのか、また市民それぞれが知りたい情報は何なのか、一度、市民意識調査の中で計ってみてはどうか。
141	資料8	推進エンジン1	別所	市のHPアクセス数については、どのページへのアクセスが多いのか、どのようなルートでアクセスされているのか等がわからないと「デジタル版の広報誌やSNSからのHPへのリンク強化」でアクセス数の増加が期待できるのかどうか不明なため、データの開示をお願いします。
142	資料8	推進エンジン1	奥	広域連携の推進を除いて、全体的に進捗が芳しくなく、特に市民との情報共有と公共施設の最適化についてはさらなる努力が求められる。ただし、公共施設の最適化については、延べ床面積だけで最適化の度合いを測ろうとすることには無理があるのではないかと。
143	資料8	推進エンジン1	渡辺ちい子	詳細施策1について、昨年意見にもあるとおり、アクセス数だけではなく、ホームページによって必要な情報が市民に伝わったかどうかの観点からも検証する必要があると思います。 市民がなぜそのページにアクセスするのか、どんな情報を知りたいのか、という視点で考えると、事業の列挙ではなく、全体を体系的に整理する、フローを示すなど、ちょっとした工夫でもわかりやすくなるという場面もあるかと思っています。
144	資料8	推進エンジン1	渡辺ちい子	詳細施策3について、今回申し上げることではないかもしれませんが、「公共施設の最適化」を図るための指標が「延床面積」を「減らす」ことであることに違和感を感じます。目標設定時に想定された新增設と解体等との差し引きで設定された値かもしれませんが、「最適化」の評価に当たっては、必要な機能が満たされているか、適正に配置されているか、についても、合わせて検証いただきたいと思います。
145	資料8	推進エンジン2	有賀	公民連携・若者女性活躍 詳細施策1 民間企業や大学との連携 A基準の考え方としては、目標達成率が100%以上であり、事業が計画通りに進捗しているものとある。今回目標達成率が70%であるにもかかわらずA評価とされたのはなぜか。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
146	資料8	推進エンジン2	渡辺ちい子	詳細施策2について、個人的な意見で恐縮ですが「若者女性」とひとくくりにすることに、疑問を感じています。社会経験が少なく特別なサポートが必要な存在、という趣旨でまとめているのかもしれませんが、それでは単に昔ながらの「おんなこども」という扱いと同じではないでしょうか。 「若者」は未成熟で経験が少ない、ということで打ち手が考えやすく、取り組まれた事業が掲載されていますが、「女性」に関する事業は特に記載がありません。何か事業に取り組まれたのであれば記載いただければと思います。 ただ、年齢も経験も様々な属性も異なる「女性」について、女性だというだけでサポートを行う、というのは、不可能に近いようにも感じています。 今後、「推進エンジン」の整理の仕方自体について検討いただければと思います。
147	資料8	推進エンジン3	別所	行政基盤のDXについては、電子申請で可能な手続数だけではなく利用者数についてもみていく必要があります。また、電子申請手続を途中で断念している利用者がある場合には、どのステップで断念しているかの分析も必要だと考えます。
148	その他	-	曾我	どこまで内容を把握し、内部評価に対して意見が書けたかは、甚だあやしいところで申し訳ありません。感想的なことと、なぜそうなのかという訳を書いています。全部を読んでみて感じたことは、一つの所管での取り組みではなくいくつかの所管に関わることが多いということです。PDCAサイクルのアクションまでR5で到達したわけですから、さらなるP（プラン）の設定の際に各所管の連携を重視して立てるとよいのではないのでしょうか。
149	その他	-	有賀	内部評価の方法について、詳細施策の取組内容が箇条書きになり、簡潔で見やすくなった。また、総合評価の文章において取組内容と目標の関係性の視点をもって記載したことも評価のしやすさにつながった。評価基準の考え方としては、目標達成率が100%であってもB評価の施策が見受けられ逆に目標達成率が100%に満たなくてもA評価とされている施策があった。あくまでも基準ということで達成率の数字にこだわる必要はないと思われるが、その詳細については、総合評価欄で明記していただけるとありがたい。
150	その他	-	奥	KPIに係る実績値が前年度から大きく変化（特に悪化）した場合については、総合評価においてその要因分析と今後の対応・方向性を記述しておくことが改善につなげていくうえで重要であるが、そうした記述を欠くケースが多々みられる。
151	その他	-	渡辺ちい子	KPIの基準年が令和2年となっているものが多い一方、本計画期間は令和4～6年であって、令和3年の数字が落ちているため、その間の数字の推移が分からず評価が難しいものがあります。なぜその指標を選んだのかもわからないため、施策や取組内容の説明と成果指標であるKPIとの関連をどう考えたらよいのか理解が難しい施策も多くありました。

総合計画審議会委員からの意見整理

通しNo.	資料番号	該当箇所	委員名	委員意見
152	その他	-	渡辺ち子	参加者数や会員数を指標とする項目については、取組み内容自体と、その集客のための取組みに分けて分析する必要があるように思います。 後者の見直し改善によってKPI改善につながるものも少なくないと思います。 単にホームページに情報を掲載する、ということにとどまらず、その事業が市民にとってどのようなメリットがあるか、参加することによってどんな効果があるか、といった、市民目線で情報を整理して発信いただければと思います。 どんなに素晴らしい事業でも参加者が少なければ効果も得られずもったいないので、ぜひ、情報発信の仕方についても検討いただければと思います。
153	その他	-	渡辺ち子	推進エンジン2について、当該欄にも記載しましたが、「若者女性」をひとくくりにした活躍推進施策は、実際には「若者」向けの施策であり、「女性」をひとくくりにした施策・事業の実施については少し難しいように思います。この「推進エンジン」の柱建てそのものについて、次回検討時には、ぜひご検討いただければと思います。